

(二十五) 「大野塚」と「ほうじ原」

西林木町の大沢と稲岡町との境あたりが「ほうじ原」と呼ばれる地帯です。

山持川の南、田の面より少し高い「大野塚」と呼ばれる石を積んだ塚と、その中央に高さ十五メートルくらいの松の木が生えていました。

昭和三十八年の土地改良までは現在の北陵高校の体育館が建っている場所に「大野塚」と言われる土が盛られた小さな丘がありましたが、土地改良時には田園になり、松の木は移植されました。

この塚は「雲陽誌」にも書かれています。

「田の中に古塚あり。古老伝云、秋鹿郡大野村の侍二人此処にて討死したりし墓なり。何の時、誰の取合に討死したるも其名しれず」

戦国時代の山陰地方では尼子と毛利の攻防が繰り返されています。天文十一年(一五四二)五月六日、鳶ヶ巣城は宍道隆慶公とは一時は同胞であった大野・大垣氏の兵糧攻めにあい落城しました。

尼子氏の滅亡後、毛利元就公と盟約して新興勢力の宍道政慶氏の配下になった大野・大垣氏は元尼子の武将としてのプライドが高く、ぎくしゃくした関係になっていましたが、指令に従わなくなった両氏を天正十年(一五八二)十月十五日・鳶ヶ巣城の改築祝賀会に招き入れ、城内で暗殺しました。そして遺体を埋葬した

場所が「大野塚」と言われています。

恐らくこの塚は、地元の住民が二人の供養のために建造した塚と考えられます。

また、「ほうじ原」と呼ばれる由縁は、やはりこの地が「大野・大垣氏」の墓地ゆかりの地帯であり、そのように呼んだらうと古老が話してくれました。近年お盆の頃、この「ほうじ原」で、亡霊を見たとの噂が流れています。昔と今 時限空間(タイムトラベル)でつながっているような気がしませんか。

